



インターンの受け入れ、実施報告

2014年8月27日～9月26日まで約1ヶ月間、JICAインターンシッププログラムで東京大学公共政策大学院の小岩謙一郎さんが1ヶ月間MAWASUプロジェクトでインターンをされました。

MAWASUプロジェクト開始2年経った時点での1ヶ月間のみのインターン。全体像を理解しかけたところにインターン終了という当初の懸念を跳ね除け、JICAへは洞察力の鋭い報告書を提出。「プロジェクト・ダイジェスト」には、別途、インターン期間中の公私の時間を含め感じたことをざっくばらんにまとめていただきました。



私は8月27日から9月26日まで、MaWaSUプロジェクトにインターンとして参加させていただきました。いま振り返ってみると、私の想像を遥かに超えるスピードで、毎日をまさに全力疾走で駆け抜けた日々でした。プロジェクトメンバーのみなさんにサポートしていただき、楽しくそして学ぶことの多い充実した毎日を過ごすことができました。

私は1ヶ月の間で、ビエンチャン、ルアンパバーン、カムアンという3つのパイロット水道公社を全て訪問することができました。ビエンチャンでは政府機関であるWASROやWSDとのOJTにも参加することができ、短い期間で何とかプロジェクト全体を見渡すことができたと思っています。

インターンシップでは、主に短期専門家の方々と行動

を共にしました。毎日の業務は、C/PへのOJTが中心となります。当初はOJTの内容を理解するのに苦労しましたが、回数を重ねるにつれて少しずつ理解を深めていくことができました。多くのテーマが同時並行で進められているので、毎日違った角度から水道事業のあり方について考えることができ、驚きや発見の連続でした。また、現場視察やMNF(ミニマムナイトフロー)測定などにも同行することができ、非常に貴重な経験となりました。



MNF測定の準備。
測定は夜通し行われます

私が滞在した1ヶ月の間には、プロジェクトにとっても重要な進展がいくつかありました。その一つが、水道教
(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



ルアンパバーン県水道公社 (北部)

首都ビエンチャン水道公社 (中央部)

カムアン県水道公社 (南部)

インターンの…(続き)

室の実施です。以前から入念に準備してきた事業ですが、9月16日にビエンチャン水道公社が記念すべきラオス初の水道教室を実施しました。実験も交えながら、子供たちに水道の仕組みや水の大切さを楽しく伝えることができました。こういった地道な取り組みを続けていき、



ビエンチャンで行われた水道教室の様子。

ナンパ(水道水)についての国民理解が深まっていけばいいと思います。また、水道教室には、他の水道公社からも担当者が駆けつけていました。反省点を生かして、今後より良い教室を各県でつくってほしいと思います。

そして、本プロジェクトを語る上で欠かせないのは、メンバー同士の結束力でしょう。MaWaSUメンバーは非常に結束が強く、団結しているのが印象に残りました。それは日本人専門家団の間だけでなく、日本人専門家とラオス人C/Pの関係でも同様です。メンバー全員が公私ともに非常に良い関係を築いており、これが円滑なプロジェクト運営を支えていると思います。

普段からメンバー同士の交流は活発ですが、特に盛り上がるのは、月例会議です。月例会議は毎月1回開催され、全てのプロジェクトメンバーが各県から一堂に会する貴重な機会です。私は1ヶ月の間に、2回の月例会議に参加することができました。メンバー全員が楽しそうに過ごしているのを見て、MaWaSUは本当に良い雰囲気プロジェクトが進んでいるのだと実感しました。会議後のサッカー大会は多に盛り上がり、私の大切な思い出となりました。専門家団のみなさんはもちろん、C/Pを含めたプロジェクトメンバー全員との出会いが、自分にとっての大きな財産だと感じています。



月例会議後のサッカー大会。

もちろん、月例会議はプロジェクトを運営していく上で非常に重要な機会になっています。互いの進捗情報を報告し、共通の課題について話し合います。プロジェクトの一体感を生み出すと共に、3つの水道公社が互いに切磋琢磨し、競い合いながら事業運営を向上していくモチベーションになっています。1つのテーマについて、各県の担当者が熱く議論を交わしているのを見ると、ラオス人の主体性な取り組みを促そうとする日本人専門家の熱意が、十分に伝わっているように思われました。



月例会議では、分科会形式で担当者ごとに議論します。

インターンシップ期間中は、週末も様々な経験をすることができました。ビエンチャンでは朝からサッカーを楽しんだり、郊外まで専門家団の皆さんとドライブに出掛けたりしました。ルアンパバーンでは滝に出掛けて象に乗ったり、世界遺産の街に沈む夕日を丘の上から眺めたりしました。街をのんびりと歩き、メコン川沿いでゆっくり過ごす日もありました。その全てが印象的で、忘れられない記憶になっています。

インターンシップが終わりに近づくにつれ、私はMaWaSUの意義や重要性を強く感じるようになりました。近年大きく発展し、人口も増加しているラオスで、水道事業の抜本的改善はまさに待ったなしの状況だからです。ビエンチャンでもタケクでも、浄水場等の施設見学をする度に、その危機感を強くしました。本プロジェクトの成否は、ラオスの今後の成長を占う上でも、極めて重要であると思います。そして、そのような重要な使命を与えられたMaWaSUに携われたことを、私自身非常に嬉しく感じています。



最終日にはインターン報告を行いました。



ビエンチャン水道公社から記念品を頂きました。



帰国前に空港で記念撮影。

この1ヶ月のインターンシップを経て、ラオスは私の大好きな国になりました。自然に溢れ、人々は優しく、いつも時間はのんびりと過ぎていきます。しかし、そんなラオスも今、少しずつ変わりはじめています。5年後、10年後、この国がどのように変わっていくのか、とても興味があります。いつか再び訪れる日を楽しみにすると共に、その日のラオス水道を支えるべく活動しているMaWaSUに、今後も注目していきたいと思っています。

現在、プロジェクトの本邦研修が実施されています。休日には、歴代の短期専門家のみなさんが、研修生のために様々なイベントを準備してくれています。私は先日、富士山へのドライブに参加させていただき、改めてMaWaSUとの出会いを嬉しく感じました。これからもこの出会いを大切に、様々なかたちでMaWaSUに関わっていきたくと思っています。1ヶ月間、本当に貴重な経験をありがとうございました。



帰国後は本邦研修生と交流しています。

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>